

医療連携だより

「大腸CT検査(CT-Colonography)」を始めます

医療技術部 放射線科 主任診療放射線技師 高橋伸光

大腸CT検査(CT-Colonography: CTC)は、肛門から専用カテーテルを挿入し、炭酸ガスで大腸を拡張して6mm以上の隆起性病変を検出する検査です。2012年JANCT(Japanese National CT Colonography Trial)では、6mm以上の大腸ポリープ・腫瘍に対する患者別の感度、特異度、陽性適中率、陰性適中率がそれぞれ87%、92%、79%、95%と報告されています。

大腸内視鏡と比較して、下剤の量が半分以下で済む、肛門へのカテーテル挿入は数cmのみで苦痛が少ない、10分程度で終了するなど受容性が高い検査と言われます。取得したCTデータを処理することにより大腸内視鏡や注腸X線検査に酷似した画像(画像:大腸CT専門技師認定機構サイトより)を取得でき、大腸内視鏡検査に抵抗がある方や過去に挿入が困難だった方への代替法になるほか、便潜血陽性者のスクリーニング検査としても注目されています。当院では、ポリープの経過観察や術前検査で運用を開始し、間もなく検診項目としても対象を拡げます。

患者さんにとって有益な検査ではありますが、前処置の状況や大腸の拡張具合によって、観察不十分な部位が生じる場合があることや、以下の方は受けられないということをご理解いただく必要があります。

適応など検査に対するお問い合わせにお応えします。お気軽にご連絡ください。

【受けられない方】

- 過去のバリウム検査時に体調不良やアレルギー様反応が出現したことがある方
- *CTCはバリウムを使う検査ではありませんが、前処置として少量のバリウムを含んだ混濁液を飲用していただくため、既往を確認させていただきます。
- 腸閉塞が疑われる方
- クローン病、潰瘍性大腸炎、腸穿孔の既往がある、腸に活動性の炎症がある方
- 人工肛門を造設されている方
- 1年以内に大腸の手術をされている方
- 6週間以内に急性大腸憩室炎と診断された方
- 15日以内に大腸内視鏡生検、ポリープ切除、粘膜切除をされた方

図1

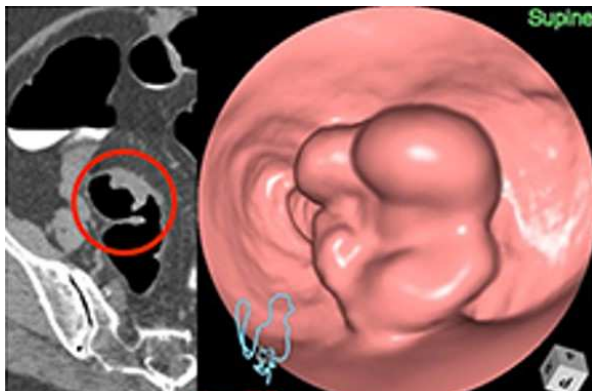


図2



第17回コミュニティサポート研修会

9月21日（水）居宅介護支援事業所や介護保険事業所、包括支援センターの皆さまを対象に第17回コミュニティサポート研修会を開催しました。

今回は、当院医療連携室・阿部理恵師長より、コロナ禍における当院の機能についてご紹介した後、対面や面会が難しい中での情報共有のあり方について意見交換を行いました。

ICTの活用拡大を期待する声や病院側に求められる情報提供のかたちなども見え、実りある時間となりました。

お忙しいなか、ご参加いただいた皆さま、大変ありがとうございました。



年末年始休診のお知らせ

年末年始は、12月29日(木)～1/3(火)まで休診です。
急患の方は、あらかじめ電話にてご相談ください。



※休診中にFAXいただいた「診療申込」「受託検査申込」は、1月4日(水)以降に返信いたします。

●発熱外来について

当院では発熱等風邪症状、または新型コロナウイルス感染症疑いの患者さんの診察を行っております。診察は場所を分けて、時間をお約束して対応しておりますので、**診察をご希望の場合は、来院前にお電話**いただきますようお願いいたします。

電話 0197(25)3833(代表)
「発熱など症状があるための相談」であることをお伝えください

奥州市総合水沢病院 医療連携室

〒023-0053

岩手県奥州市水沢大手町三丁目1番地

電話 0197-25-3833 (内線257)

FAX 0197-25-4012 (医療連携室直通)

ホームページ <http://www.mizhsp-iwate.jp>



当院ホームページはこちらから1

【おねがい】

○医療機関からご紹介いただく場合は、FAXによる診療申込をお勧めしております。

○当日ご紹介の際は、直接診療科の医師へご一報ください。

患者様がスムーズに診察を受けていただくため、ご協力をおねがいたします。